「学校だより」令和４年７月１日　第４号　　発行責任者　渋谷区立神宮前小学校　校長　手代木 英明

神宮前だより

タブレットでつながる学び

校長　手代木　英明

短い梅雨が明け、夏本番です。この時期は水泳が最高です。暑さ対策をして教育活動に取り組んでいます。

六月八日の六年「国会議事堂見学」では、重厚な建物を見学し、現職議員さんから「若者の投票率が低いことや女性議員が少ない」などの説明を受けたり「議員になった理由」などを質問したりしました。十六日の三年「区内めぐり」では、渋谷区郷土博物館でナウマンゾウの標本やハチ公、昔の生活などについて学び、代々木八幡遺跡で竪穴式住居に入る体験をしました。

また、二十三日には、夏休みの「那須自然体験教室」の打ち合わせを一緒に行く鳩森小五年生とテレビ会議(Teams)で行いました。これまでの宿泊学習では、複数校が同一宿泊地に行く場合は、活動をずらして別々に実施するのが普通でした。今回は、合同実施に挑戦しています。テレビ会議で知り合った子供たちが、現地でどのような活動ができるのか楽しみです。

校長室で人形の撮影をしているのは四年生です。図工『クネクネマン』は、アルミニウム針金で人形の芯を作り、新聞紙で肉付けして色を付けたものです。完成後、手足を動かすことができるので、ポーズがつけられます。この特徴を生かし、人形たちにポーズをつけてソファーに座らせ、写真作品を制作しているのです。これまでの図工では、作品が完成したら鑑賞をして終了でしたが、タブレットを使ったことで新たな学習活動に発展しました。

このように、人と人がとつながったり、学びがつながったりすることを重視する教育DX（デジタル トランスフォーメーション）を神宮前小学校では進めています。

画面に鳩森小の仲間が

「これで、いい？」「かわいい！」

快と不快の間を学ぶ②味覚

人は食経験を重ねて味を知り、食べられる味が広がります。十歳頃までの味の記憶がその後の味覚の基礎になるといわれています。そのため、子供のうちに様々な味を経験し、味覚の幅を広げておくことが大切です。

人の味覚には、甘味、酸味、塩味、苦味、うま味がありますが、「腐敗した味に似ている酸味」、「毒を想起する苦味」は最後に獲得する美味しさを感じる味覚です。子供が酸っぱいものや苦いものが苦手なのはそのためです。しかし、小学生のうちに酸味や苦味の適切な食経験をしないと味覚が発達しません。「美味しい・まずい」を子供だけに判断させないで、「酸っぱいけど〇〇だから美味しいね。」と教えていく必要があります。

子供は「信頼できる人から勧められると味覚を広げられる。」といわれています。快と不快の間を根気よく教えていきましょう。

七月の生活指導

身の回りの整理整頓をしよう

七月に入り、夏休みが近づいてきました。学校では暑さに負けず、毎日の学習や行事に向けて準備をしたり、休み時間に楽しく遊んだり、子供たちは充実した毎日を送っています。忙しく過ごしていると、ついつい忘れてしまいがちなのが、整理・整頓です。学校では、夏休みに向けて、掃除や片付けについて週目標を設定し、取り組んでいきます。

学校は集団で生活する場です。互いに気持ちよく過ごすためには、決まったスペースで自分の物を管理することが大切です。全員が落ち着いて学習に取り組める環境をつくることができるようにしていきます。

また、整理・整頓で出てくるのが落とし物です。持ち物に記名がされていないため、持ち主に戻らないことが多く、残念に思います。自分の持ち物に愛着をもち、物を大切にする心を育てるためにも、ご家庭でもお声掛けをお願いします。

お知らせ

四月からの校内での落とし物を、七月十八日～八月二日の間に昇降口に展示します。ご確認ください。持ち主が見つからなかった物は処分となりますことをご了承ください。

（生活指導部）